

平成 26 年度第 11 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「サケの不思議 人工採卵事業の見学と遡上の観察」を実施しました。

開催日時：平成 26 年 11 月 22 日（土）

開催場所：午前 筑西市女方：鬼怒小貝漁業協同組合サケふ化場
午後 筑西市五行川・勤行緑地

参加者：47 名

今回はアンケートでリクエストが多いサケの観察会を 2 年ぶりに実施しました。バスの定員を大きく超える応募があり、現地集合の方も含めて、総勢 47 名の参加者が集まりました。

行きの車中では、サケが生まれた川に帰る仕組みや魚の回遊行動についてみなさんと勉強しました。サケは、①頭部に磁力を帯びた細胞を持ち、これが磁石となり方角が分かる。②陸地に近づくと浅場を泳ぐようになり、太陽の位置でより正確に川の位置を把握する。③最後には故郷の川のおいを感じ取る、という習性により間違いなく自分の生まれた川に帰ってくるそうです。またパートナーの方から現在の水産養殖のトピックスや今日の観察会のフィールドの概要などのお話をして頂きました。

午前中の観察は鬼怒小貝漁業協同組合の人見副組合長の御案内で、サケの特別採捕と採卵の見学をさせて頂きました。堤防から眼下に広がる雄大な鬼怒川の流れを見て気持ちが高ぶります。川岸に下りてみるとサケが遡上する姿が見え、早くも歓声が上がります。子どもの参加者は漁協の方が網で捕まえたサケをつかませてもらい、その重さにびっくりしていました。その後、人工採卵を行っているふ化場へ移動し、人工採卵の様子を見せて頂きました。ふ化場で卵に精子をかけて受精させ、水温 16℃の井戸水で 2 月上旬の放流まで大切に育てるそうです。人工採卵は河川での自然産卵だけでは効率が悪いので、多くのサケが戻るために行うものだそうです。それでも 4 年後、生まれた川に無事に帰ってくるのは 2%程度と自然の厳しさを実感しました。また河川に産卵したサケの卵がふ化するためにはカビなどに侵されないよう良好な水質を保つことが重要で、きれいな水質を保つため近隣の方々とのゴミ拾い活動なども行っているそうです。

午後は五行川（別名：勤行川）の勤行緑地へ移動し、サケの遡上を観察しました。五行川は川幅も比較的狭く、水際からも橋の上からも観察しやすいので、多くのサケが遡上している姿を観察できました。上流の堰を上ろうとするサケの力強い姿や、目の前でオスとメスのサケが産卵行動を行う姿を見て、みなさ

ん時間を忘れて観察しました。川底には産み付けられた卵も見えました。次の世代に命をつなごうと最後の力を振り絞るサケの姿にはただ感動するばかりでした。

お忙しいなか、時間をかけて御説明頂いた鬼怒小貝漁業協同組合の人見副組合長さま、漁協のみなさん、そして参加者のみなさん、パートナーのみなさん、ありがとうございました。



川幅いっぱいにながなが広がります。



サケを運ぶ漁協のみなさん



手際よく卵を取り出します。



サケの重さにびっくり！



目の前で繰り広げられるサケの産卵



御説明いただいた人見副組合長